

IoT 水位監視システム for LPWA

◆ 省電力&広域無線通信

LPWA の採用により、低消費電力で広いエリアをカバーします。

◆ 通信費の低減

LPWA の採用により、通信費の削減が可能。

センサーを複数地点に設置してもランニングコストを抑えることができます。

◆ リアルタイムの情報把握

クラウドによるデータ管理により、リアルタイムの情報把握が可能です。

インターネット環境があればいつでもどこでも状況把握ができます。

◆ 設置が簡単

センサーと通信端末を設置するだけで計測を開始することが可能です。

電源引き込み工事や通信回線工事は不要です。

◆ アラート機能

あらかじめ設定した閾値を超えた場合にメール等で通知します。

本システムは、※LPWA(Low Power Wide Area)を利用した次世代の水位監視システムです。河川・排水路・ため池などの雨量、水位を常時モニタリングし、データの記録を行います。設置場所や機器の選定、設置工事、運用保守までワンストップでサービスを提供します。自治体などで多数実績があります。



雨量



水位



表示画面例

活用事例

●ため池の情報伝達

ため池のハザードマップを作成し、下流域の浸水想定区域の住民が最新の情報を入手できるアプリ等の提供に活用する。

●雨水幹線の把握

降雨時に複数箇所の現地確認をすることが困難なことから、各地域の降雨量や雨水幹線の水位・流量の自動観測を行い、これらの記録データを浸水要因の分析や効果的な浸水対策の検討に活用する。

●浸水被害状況の把握

浸水被害発生時は被害家屋等の住民からの連絡により被害を把握することが多い。そこで、特に浸水被害が頻発している地区において、側溝等の水位観測データを集約し、浸水被害の発生が懸念される場合は通報されることで迅速な初動体制の構築に活用する。

●雨水施設の管理

日常的に各雨水幹線の沈砂量、ゴミづまりの監視を行い、降雨時に幹線能力が十分に発揮できるよう、効率的な維持管理への活用。また、幹線の敷設年度、自動監視による漏水や劣化、降雨時の流下状況を考慮し、緊急度別に改修が必要な幹線の割り出しへ活用する。

